

Q 1 : 開かれた学校経営はどのように進めていけばよいでしょうか。

今までの開かれた学校づくりとこれからの学校の在り方

A : 今までの開かれた学校づくりは、どちらかという学校施設の開放に重点が置かれ、保護者や地域社会の人々とのかかわりも、学校の立場から理解と協力を得ることと考えられていました。

これからの学校は、社会に対して「開かれた学校」となり、家庭や地域社会に対して、積極的に働きかけていくことが必要です。家庭や地域社会とともに子どもたちを育てていくという視点に立った学校経営を心がけることは、極めて重要なことです。管内でも、自由参観日を設けたり各種便りを地域の全戸に配布したりして意識を高めている学校が多く見られます。

学校評議員の設置

(1) 学校評議員の設置

地域とともにある学校という視点から、学校教育について幅広く地域住民の意見を聞き、学校運営に反映させていく仕組みとして、学校評議員の設置があります。学校評議員は、校長の行う学校経営について外部の目で学校の営みをとらえて、意見を述べ助言します。この制度は、学校教育の活性化を図るだけにとどまらず、学校の信頼づくりの面からも効果があります。

管内でも『地域に開かれた学校づくりと特色ある学校づくり』を推進するため、学校評議員制度を取り入れた学校があり、校長のリーダーシップの下、大きな成果を上げています。

学校支援ボランティアの協力

(2) 学校支援ボランティアの導入

学校の教育活動を展開するに当たっては、地域の人々や保護者にボランティアとして協力してもらうことも開かれた学校づくりとして有効です。学校教育活動全体にわたって、保護者等の協力を得て、その教育力を生かすとともに、日々の教育活動を公開していくことにもなるからです。

管内の学校でも、総合的な学習の時間の取組の中に、保護者や地域の人々のかかわりが多様な形態で見られるようになってきています。

内にも開かれた学校

(3) 内にも開かれた学校づくり

開かれた学校づくりには、学校の内における教職員の意識の変革が欠かせません。そのためには、学年・学級間、及び教科間の教師の相互補完にとどまらず、様々な機会をとらえて、謙虚に保護者や地域の人々の声に耳を傾け、学校にかかわる人々の心情を理解していくことが大切です。

児童生徒にも開かれた学校

(4) 児童生徒に開かれた学校づくり

教職員と児童生徒の触れ合いを大切に、児童生徒一人一人が学校で学び活動することに、楽しさや生きがいを感じることできる学校づくりを進めていくことが大切です。

参考資料

『初等教育資料』文部省 平成12年3月 P2～P7